

平成 27 年 8 月 1 日・2 日に母乳育児シンポジウムが開催されました。今年の名古屋国際会議場が舞台です。

1992 年に、8 月 1 日を世界母乳の日、8 月の第 1 週を世界母乳週間と制定されたことを記念して、故山内逸郎先生(元国立岡山病院院長)が「母乳をすすめるための産科医と小児科医の集い」を開催しました。この集いが母乳育児シンポジウムの始まりとなり、現在毎年 8 月の世界母乳週間の土曜日、日曜日に開催されています。

シンポジウムは実行委員会で開催年の大きなテーマを決めていきます。「母乳育児成功のための 10 カ条」を産科施設にいかに関与させることができるかを基本とし、母親たちが母乳育児の継続ができるような支援を様々な角度から討論していきます。今年のテーマは「母と子の笑顔のために日本の真ん中から広げよう」です。このテーマに沿って 30 名以上の方々が発表され、それに対する質疑応答も盛んに行われました。

シンポジウムでは BFH (「赤ちゃんにやさしい病院・Baby Friendly Hospital」) 認定式も併せて行われています。当院でも毎年 3~4 名のスタッフが参加していますが、今年は BFH に認定されたこともあり、院長以下総勢 7 名での参加となりました。

当院は、昨年 BFH を申請し、書類審査を経、今年の春に現地調査が行われました。その際は、当院で出産されたお母さんやお子様、当院に通院中の妊婦さんにもご協力いただき、無事 6 月末に認定の連絡をいただくことが出来ました。

シンポジウム前日の 7 月 31 日には認定式の説明などもあり、前日から名古屋をめざし、大(?) 移動です。名古屋は誰も行ったことがなく、施設発表用のポスター等を含め大荷物を持ち、名古屋駅到着後すぐに地図を広げるといったおのぼりさんぶりをいかに発揮し、土佐弁全開での道中となりました。

説明会の中で、今後当院が地域で担うべき役割 (BFHI・ベビーフレンドリーホスピタルイニシアチブ) のお話をいただきました。BFHI は、母乳育児推進運動のことですが、その中心となる施設の組織も意味しています。つまり、BFH と認定された施設は、さらに BFHI としての役割が課せられます。その役割とは、母乳育児をその施設だけでなく、地域に率先して広めていくことです。BFHI は、出産施設、保健施設、母親サークルなどが施設間連携や組織間連携を行ない、チームとして母乳育児を支援する社会運動の中心的役割を果たす必要があります。BFHI に認定され終わりではなく、これから新しい役割が始まるという責任を改めて感じるようになりました。

翌日から始まったシンポジウムでは、医師や助産師、看護師の方だけでなく、小児科に勤める保育士の方や、産科の管理栄養士の方などからの発表もあり、様々な職種の様々な立



場からの意見を聞くことができました。日常業務では知りえない、他の施設の取り組みや、地域ごとの特色なども併せてうかがうことができ、大変有意義な勉強をさせていただきました。

BFH施設の認定式では、当院を含め4施設が新たに認定を受け、順にユニセフ職員の方からピカソの母子像が描かれた認定証を受け取りました。当院を除く3施設はすべて総合病院で、壇上に上がる人数も多く、中にはおそろいのTシャツを作り臨む施設もあり、また壇上でカツラを被るような場面もあり、シンポジウムとは打って変わり、大変楽しい雰囲気での認定式となりました。



ただ、その裏側には、認定を受けるため、各施設それぞれ、いろんな苦労・努力がありこの日を迎えることができたという喜びがあふれていたように思います。

当院にとりましても、振り返ってみると、BFHの認定を受けるという目標に向かい、全職員が意志の統一を図り、今まで行っていた業務に加え、新しい取り組みに挑戦し、協力して取り組めたことが認定を受けたことと同じくらい大きな成果だったのではないかと思います。

当院は、スタッフ数も少なく、小さな診療所ではありますが、今後も地域の妊婦さん、産後のお母さんやそのご家族の方々のお役に立てるよう、職員一同頑張っていきたいと気持ちを新たにできた3日間でした。

高知ファミリークリニック 事務 田村京子